

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

園名	久米川保育園
日時	令和7年12月18日

1. 活動テーマ

＜テーマ＞

自然・・・2歳児「秋から冬の自然の探究」

＜テーマ設定理由＞

秋の自然に触れ、手で触れ、踏みしめたときの音を聞き、赤や黄色の葉っぱの色など色とりどりの秋の自然を楽しんできました。冬の季節へと次第に移り行く自然に触れて探究活動を行いました。

2. 活動スケジュール

- ・5月26日に散歩に出掛け、園周辺の自然に触れる
- ・10月より園周辺の自然に触れる機会を設けている
園外活動スケジュール 10月8日、29日、11月12日
- ・秋の自然のに触れる経験をしてから、冬を迎える時期の自然に触れる活動を行う

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・散歩用リュック ・無線機 ・撮影用iphone ・デジタルカメラ
- ・子どもが収集したものを持ち帰るための袋

4. 探究活動の実践

＜活動内容＞

- ・午前のおやつを食べた後、近隣の霊園に出かける。
- ・今回は探究活動として、「霊園の広場に何かがあるかな?」「前に行ったときと違うものが有るかな?」という問いを子どもに投げかけて、どんな発見があるか楽しみにして出かけた。
- ・霊園に到着し、まずは安全についての約束事を話した後は、過度な問いかけは行わず、子どもが探究する様子を側で見守り、記録を取った。
- ・子どもが見つけたものは、園に持ち帰り、引き続き探究活動が継続できるようにした。



＜活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関り＞

自然に囲まれた広場で自由に動き回り何かないか探している

T: Aちゃんが虫を探そうって言うているね

A: 幼虫だけいる(落ち葉の中から探そうとする仕草)

T: 幼虫だけいるんだ、そつか・・・

B: これ、花火だよ(足元からどんぐりを拾い、つぶやく)

C: 虫、こわいよー(と言いながらも自分の足元を探している)

D: 大丈夫だよ、大丈夫(励ますように顔を覗き込んで話しかける)

E: これなんだ?(見つけたものを保育士Tに見せる)

A: (土を掘って、土の中を探している)

B: Aが掘る様子を側に近寄って眺め始める

D: どんぐりみつけたー

E: 帽子かぶってる

(見つけたどんぐりを保育士に見せる)

B: ひゅー、どっかーん(見つけたどんぐりを放り投げる仕草)

: これ花火みたい

E: (いくつかのまつぼっくりが付いている枝を拾う)

まつぼっくり!(傘の壊れたまつぼっくりを指差し) ほら、みて

T: どうして、こうなっているんだろうね

E: かわいそうだね(まつぼっくりを見つめている)

A: 傘が壊れたまつぼっくりをEと一緒に眺める

Eから枝を受け取り、じっと眺める

枝から傘の壊れたまつぼっくりを外そうとするが固くて外れない
しばらくの間、枝を持ち歩く

C: 先生見て、木が割れている(ひびが入ったような木の幹を見つめる)

(より近づいてじっくりと眺めようとする)

: 破れてる(何かをつかむような指の動き)木が破れている(再びつぶやく)

T: 何で敗れているのかな?

C: (手振りを交えて)バラバラって落ちちゃうの

(木の幹を見つめる、木漏れ日が視界に入り、指差す)

: ぎらぎらしてるの・・・Dと一緒に上方を見つめる

E: シャンシャンって音がした

(落ち葉が積もった場所を何度も踏みしめて、聴こえてくる音を言葉で言い表している)

F: シャカシャカするね

次第に周囲の子どもも同じように落ち葉を踏みしめ
駆け足のように早く足踏みを始め音を出している

T: どんな音がした?

D: ゴロゴロした

B: (拾ったものを「ぼーん」と言いながら放り投げる)

: ひゅー、どっかーん

(繰り返している)

(周りの子ども達も真似をするように、どっかーんと言いつつどんぐりを放り投げる)



5. 振り返り <振り返りによって得た先生の気づき>

・落ち葉を踏みしめて「シャンシャン」「シャカシャカ」「ゴロゴロした」と表現し、自分の耳で聞き分けた音を、自分なりのことばで伝えようとしている。

・どんぐりを「ひゅー、どっかーん」「花火みたい」と言いながら投げる姿から、知っていることや興味があること、経験したことを遊びに結び付けている。感覚と動きと音を結びつけて、おもしろさを再現しようとしている。

・足元のどんぐりを「これ、花火だよ」とつぶやいたり、落ち葉の音を「シャンシャン」と表したりする中で、身近な自然物を別のものになぞらえる見立て遊びが豊かになっている。

・傘の壊れたまつぼっくりを見て「かわいそうだね」と感じたり、帽子をかぶったどんぐりに注目したりする姿は、形や状態の違いからイメージをふくらませる感性が育っていることに気づかされる。

・「虫、こわいよー」と言うCに対して、Dが顔をのぞき込んで「大丈夫だよ、大丈夫」と声をかける姿から、友だちの不安に気づき、安心させようとする思いやりが芽生えていることが読み取れる。

・+人の「ひゅー、どっかーん」という遊びに周囲の子どもが次々と真似して参加していく様子から、仲間の発想がきっかけとなって遊びが共有され、集団の中で楽しさを分かち合う力が育っている。

・土を掘り返したり、幹のひび割れをじっと見つめ「破れてる」「バラバラって落ちちゃうの」とつぶやく姿から、目に見える様子を自分なりに考えている様子や変化の理由を考えようとする探究心が育っていると考えられる。

・木漏れ日を指して「ぎらぎらしてる」と表現したり、落ち葉の積もった場所を何度も踏んで音を確かめたりする様子は、光や音などの自然の現象にも心を動かしていることに気付かされる。

・子どもたちは、秋から冬へと変わる自然の中で、音・形・光などさまざまな変化を自分の言葉と遊びにしている。その中で、友だちと関わり合う姿が見えてくる。

・保育士にとっては、「五感を使った探究」「見立てやことばの表現」「友だち同士の支え合い」を丁寧に受け止めたい場面だと考えられる。